

令和3年度保育士等キャリアアップ研修会

ジェノグラム・エコマップ

～家族状況を理解し支援策を見つけるツールを学ぼう～

2022/2/18 担当：新開よしみ

本時のねらい

家族状況を理解し支援の手がかりを見つける **ツール**

- ① **ジェノグラム**
- ② **エコマップ**
- ③ **リスクとアセット**

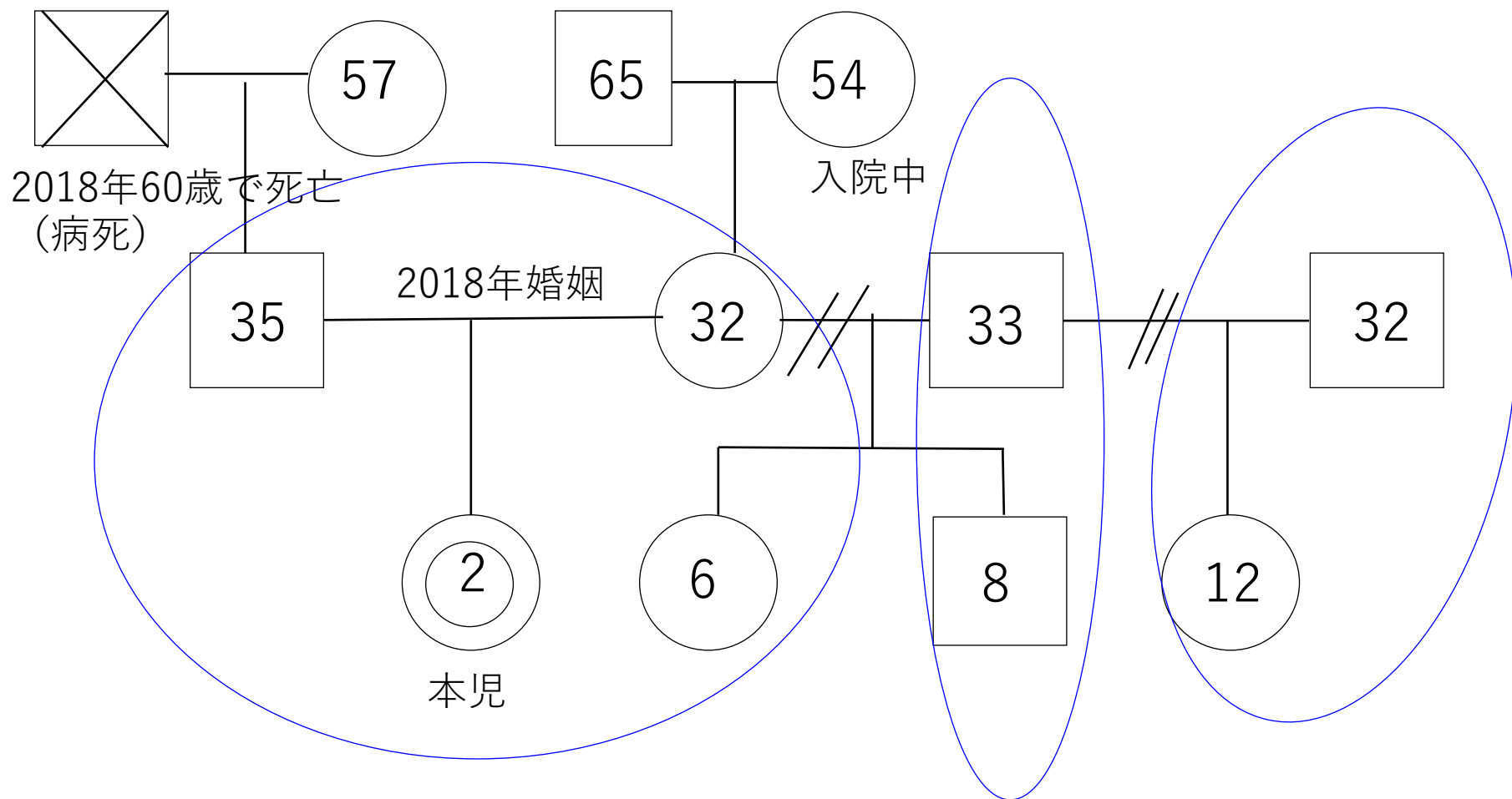
の3つを学び

保育者ができる支援・援助計画の一例を知る

ジェノグラムとは

- ◆家族状況を視覚化したもの
- ◆基本的に3世代の家族員（血縁でなくても同居や家族との関係が深い人を含む）の人間関係を図式化したもの
- ◆その子どもを中心とした家族を理解するのに役立つ
- ◆例えば、虐待が起こっている家庭等は家族構成が複雑なことも多く、ジェノグラムを作ると家族関係が一目瞭然となり、問題を整理したり、家族の誰に働きかければ良いかなどの支援策を検討したりするのに役立つ

ジェノグラムの例



ジェノグラムの書き方（基本）

1. 男性は□、女性は○で示す。（性別不明は△）
2. 本児（ケースの子ども）は  または◎で示す。
3. 婚姻関係を横線でつなぐ。
4. 離婚は//、別居は/を横線に入れる。
5. 同棲や内縁関係は点線で示す。
6. 親子関係は婚姻関係の線から縦線で示す。
7. □や○の中に年齢を書く。年長者が原則左になる。
8. 女性で妊娠している場合は、○の中に△を入れる。
9. 亡くなっている方は□や○の中に×を入れる。
10. 同居している家族を線で囲む。

練習① 本児 2 歳女兒・母親28歳・父親30歳・
兄5歳の 4 人家族

※父方祖父母死亡・母方祖父母健在・母方叔母24歳

練習② 本児 3 歳男児・母親40歳・父親42歳・父方祖母70歳の 4 人家族

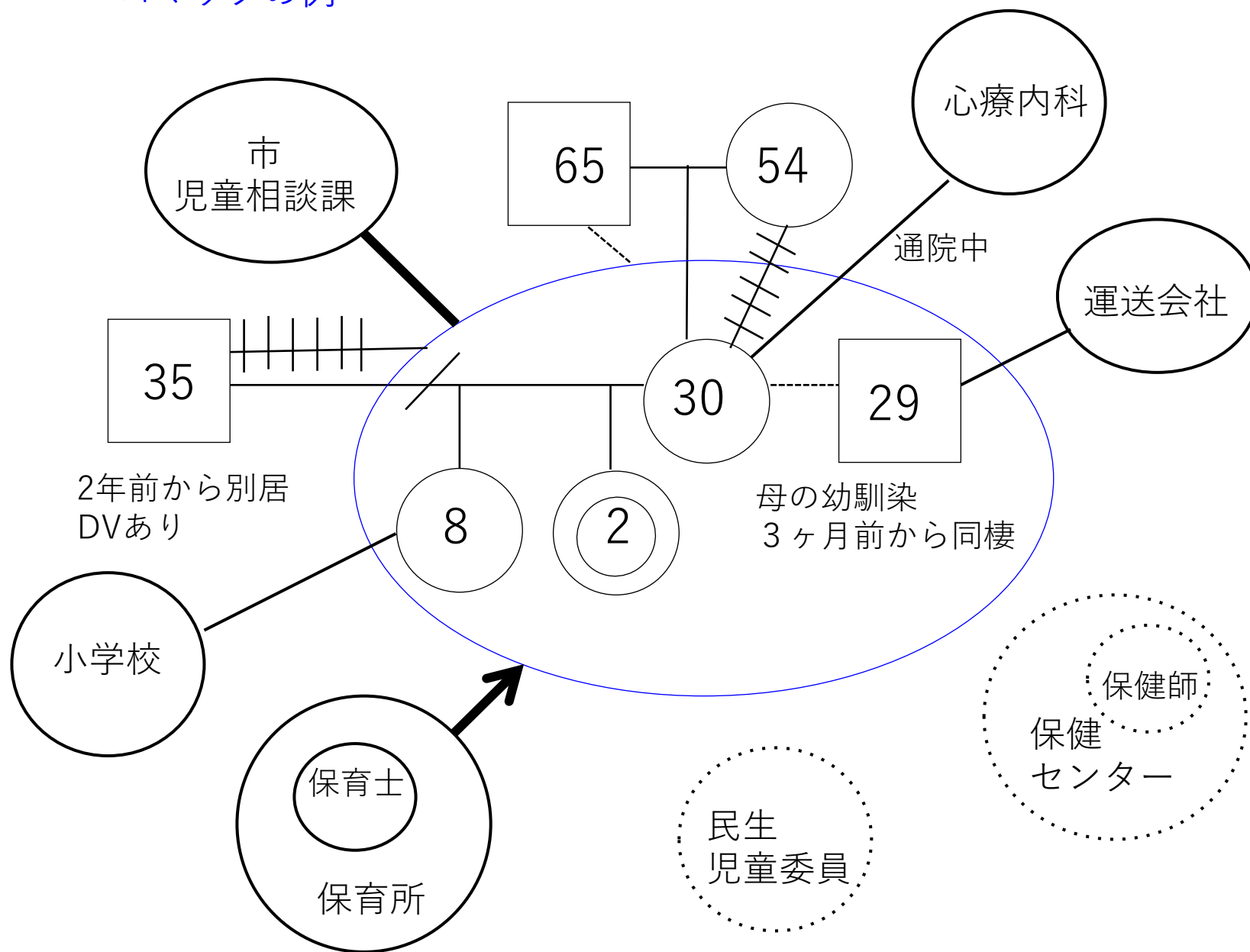
※両親は 5 年前に再婚。母親は前夫との間に12歳の男児がいるが夫に引き取られている。



エコマップ^o(ハートマン,1975)とは

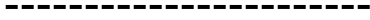
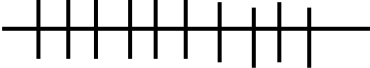
- ◆生態地図、家族関係地図とも呼ばれる
- ◆支援を必要とする家族を中心に、問題解決に関わる社会資源（関係者や関係機関など）との関係を線や記号を用いて図式化したもの
- ◆支援に活用できる社会資源を知ったり検討したりすることができる
- ◆関係機関との連携について、よりわかりやすくなり、協力体制を高めることに活用できる
- ◆園内および関係機関とのケースカンファレンスにおける情報の共有や、状況が悪化した場合に連絡を取り合う際などに活用できる

エコマップの例



エコマップの書き方

1. 中心に本児と家族を置いて、周りに関係する機関や人を書き込み線で結ぶ
2. 関係性の強さや良し悪しは、線の表記の仕方で示す

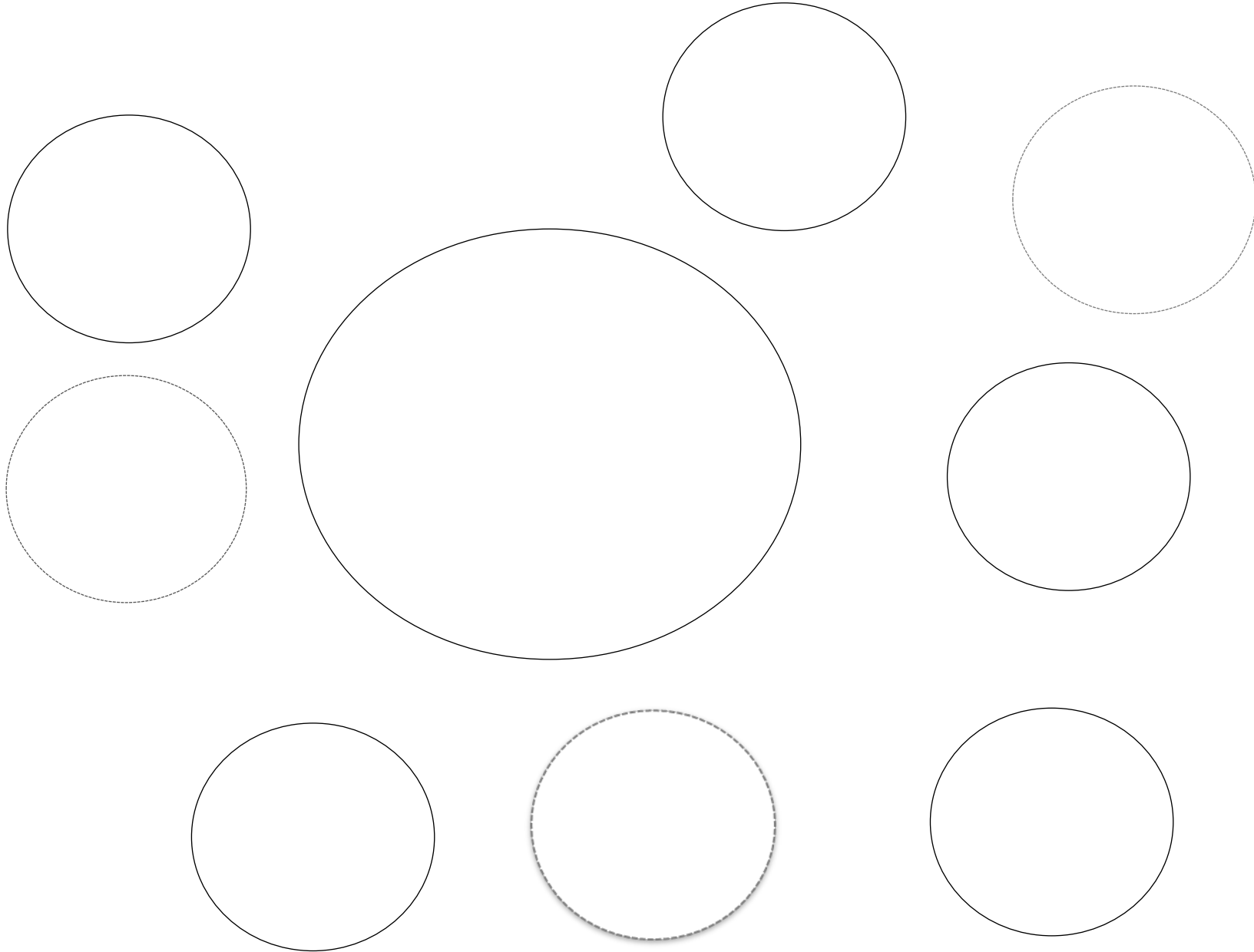
	関係が強い
	普通の関係
	関係が弱い
	対立関係（ストレスのある関係）
	関心や働きかけの方向



次の事例でジェノグラム・エコマップを書く練習してみよう！

- 本児Tくん3歳男児、父親34歳、母親24歳の三人家族
- 5カ月前に父親の転勤で転居。母親が子育てに疲れ保健師に相談。保健師に勧められて4月より保育所入所。
- 入所後の個人面談にて母親より：母親は短大卒業後就職し職場で父親と出会い即結婚、1年で退職。1年後にT児を出産。母方の祖母は健在だが、祖父が他界後再婚し疎遠になっている。一歳半健診で言葉の遅れを指摘され、要経過観察となり月に一回保健センターに通所。転居後も保健師に相談。本市では週一回の療育指導があると紹介された。母親はT児に対して、できることはすべてしてやりたいと考えている。一方父親は、T児は「普通」で療育の必要はないと主張しており、夫婦で意見が対立している。また、母親は転居後、日常的に他者との会話がなくなり、精神的に疲れを感じ通院、軽度うつ病と診断。T児は保健師の勧めで保育所入所。

事例 他市から転入してきたTくん（3歳）



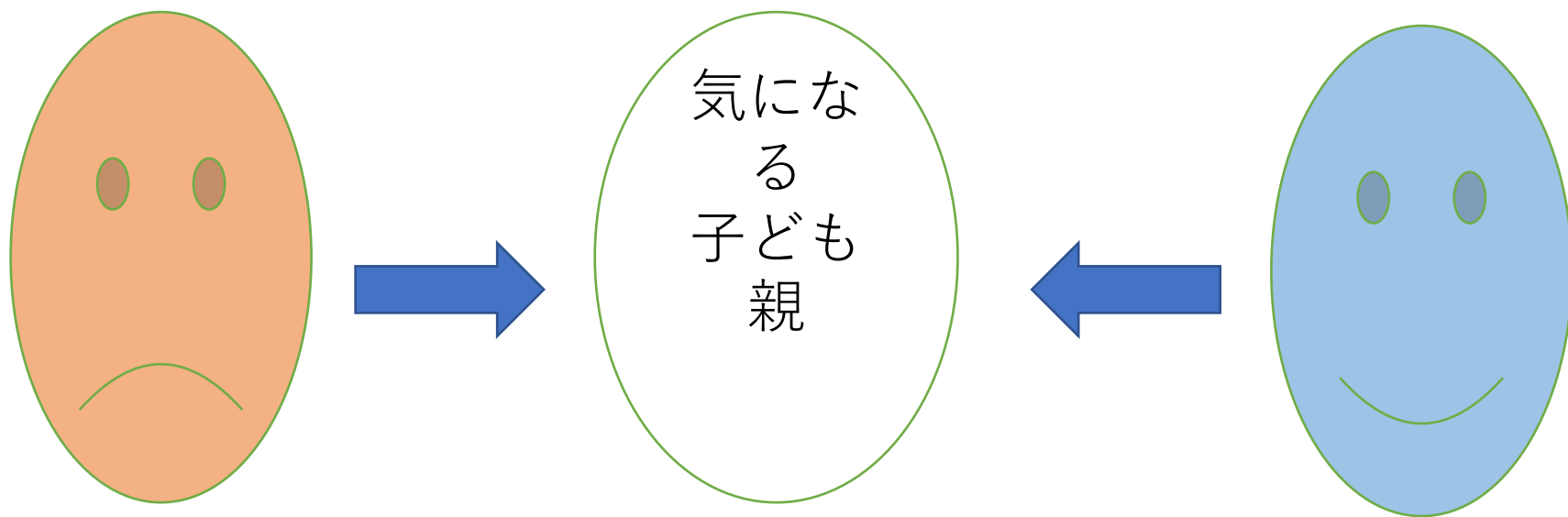
リスクとアセット

(+ α の視点を身につけよう)

❖ **リスク**：対象児やその家族が抱える問題・課題や将来的に悪影響を与える可能性のある要因等

❖ **アセット**：対象児やその家族が持っている強み（支えとなるもの）や力等

リスクとアセットの視点



事例のリスクとアセット

	リスク	アセット
家族の状況 家族構成・世帯状況 生活・就労状況 家族メンバーの特徴		
養育状況 育児役割・負担状況 ペアレンティング（親として期待される行動）の特徴、近隣親族の育児支援、夫婦関係・親の特徴、子の親に対する反応		
地域的・社会的状況 既に関わりのある機関との関係 地域や親族、友人との関係・地域の特徴		

最後に…保育者が行える支援
について考えてみよう！

■本児に対して

■母親に対して

■父親に対して

■その他

援助計画の一例

目標：家族のニーズが充足された状態 父親と母親で、生活の中でT児にとって何が必要かを明らかにし、T児に必要な援助を提供する。	具体的目標： ・母親は、T児を保育所に預け通院し、休息をとり、精神的な安定を保つ。 ・父親は、T児の様子を理解する機会や場をもつ。 ・T児にとって今何が必要か、父親と母親が検討し、明らかにする機会をもつ。 ・必要と認められれば、T児を療育指導に9月（後期のグループ）から通所させる。
母親	・保育所の行事に父親を誘う。可能な時は送迎を父親に任せる、連絡帳の記入をしてもらうなど、保育所と父親の接点をつくる。
担任保育士	・父親と挨拶や日常会話を交わしながら関係をつくり、T児が楽しんでいること、関わり方に工夫が必要な点を伝える。 ・7月下旬に父親、母親、担任保育士の懇談会を提案する。
主任	・転勤、転居してきたばかりの父親の心情に添いながら話を聴き、関係をつくる。
保健師	・母親の精神的なサポートを行う。